

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

原北中学校 学校通信



令和2年 5月21日 第2号
福岡市早良区小田部7-11-1
電話 092-851-3344
発行者 校長 福崎 浩信



学校が再開しました

福岡市においては、三密（密閉・密集・密接）を避けるために段階的な学校再開を始めました。

ステージ1 学年分散登校

5/21（木）～23（土） 5/25（月）～27（水）

21日、本校第45回入学式を2クラスずつ3回に分けて実施しました。

新入生242名が、原北中学校に入学しました。

22日は2年生、23日は3年生を、学級を2つに分散した場所で、学校生活を始めるに当たってのガイダンスを行います。

25日から27日は、ステージ2の学級分散授業開始に当たっての班決め（AとB）を行い、（自分はいつ、どこに登校するのか）や何をどのように授業していくのかや、在宅日の家庭学習の進め方を伝えます。 ※A、Bの登校日は配付資料をご覧ください。

本年度の授業は全て40分授業となります。

学校は段階的に再開していきませんが、しばらくの間は、週2～3回の登校になります。引き続き不要不急の外出を控え、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めると共に、家庭学習を充実させて下さい。

25日からは、給食が始まります。給食後は、14時10分に下校します。

ステージ2 学級分散授業①（午前の分散登校）

5/28（木）～29（金） 6/1（月）～4（木）

登校後、健康観察を行い、午前中40分授業が5コマ行われます。

給食、清掃、帰りの会の後、14時10分に下校します。

ステージ3 学級分散授業②（全日の分散登校）

6/5（金）～必要期間

登校後、健康観察を行い、午前中40分授業が5コマ行われます。

給食、清掃後、午後は40分授業が2コマ行われます。帰りの会の後、16時25分に下校します。

また、今後、年度末までに以下の予定で22回の土曜授業を行います。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| ① 5/23 | ② 6/6 | ③ 6/20 | ④ 7/4 | ⑤ 7/18 |
| ⑥ 8/1 | ⑦ 8/22 | ⑧ 9/5 | ⑨ 9/19 | ⑩ 10/3 |
| ⑪ 10/17 | ⑫ 10/31 | ⑬ 11/14 | ⑭ 11/28 | ⑮ 12/12 |
| ⑯ 12/26 | ⑰ 1/9 | ⑱ 1/23 | ⑲ 2/6 | ⑳ 2/20 |
| ㉑ 3/6 | ㉒ 3/20 | | | |

さらに、終業式（終業日）や始業式（始業日）の日程も以下のように変更予定です。

×1学期終業式 7/21（火） → ○1学期終業日 8/6（木）

×2学期始業式 8/27（木） → ○2学期始業日 8/20（木）

×夏季休業 7/22（水）～8/26（水）

→ ○8/7（金）～8/19（水）

×2学期終業式 12/23（水） → ○12/26（土）

×冬季休業 12/24（木）～1/6（水）

→ ○12/27（日）～1/6（水）

命がけて国難に立ち向かってある方々のおかげで・・・

感染予防には、一人ひとりの自覚ある行動によって確実に感染者減少に繋がっていると言われていますが、一方で、「まさか自分が感染するなんて・・・」、「まさか自分の身内が感染するなんて・・・」というのが現実です。誰にでも、感染する可能性があるということです。また、医療現場の最先端で命がけて国難に立ち向かっておられる方々のおかげで、感染者の方々も多くの方が確実に回復されています。治療薬やワクチンの開発のために昼夜を問わず研究をされている方々のおかげで、国民の不安が少しずつ払拭される状態になっています。これらの方々は、自宅に帰らず、ホテル住まいの方々もおられます。

そんな中、感染者や医療従事者等への心ない言動が少なくありません。感染者、濃厚接触者とその家族、新型コロナウイルス感染症の対策や治療に当たっておられる医療従事者や社会機能の維持に当たってある方とその家族等に対する偏見や差別に繋がるような行為は、断じて許されるものではありません。

安心・安全な環境を、一人ひとりの責任ある言動の中で構築していきましょう。

品格が問われるのは平時よりもむしろ、こうした苦難の時なのではないでしょうか

戦争、天変地異、疫病の流行など、社会を襲う未曾有の危機は、きまって不意に訪れます。そして人々は不安と恐怖から理性を失い、狂奔（正気を失ったように走り回ること）した行動に走るようになります。必需品の買い占めに走ったり、他国民を非難したり、人として見苦しい振る舞いをしてしまいます。

平時であれば自制心を保つところを、非常時となるとたがが緩み利己的になりがちです。

品格が問われるのは平時よりもむしろ、こうした苦難の時のように思います。日本人の素晴らしさは和を貴ぶ（価値の高いものとして重んじる）ところにあります。だからこそ、秩序を守りながら衆知を集め、危機を打開することができます。

それは数多くの被災地でも、私より公の事を優先し、他人への思いやりを忘れない国民の行動の一つひとつに、存分に発揮されているのが日本といわれています。

競い合うより、一つになって協力し合うべき時代に来ています。

道は開ける(成せばなる) 「言不務多。而務審其所謂。・・・大戴礼記」

「言は多きに務めず。其の謂う所を審（あきら）かにするに務む。

大戴礼記（だたいらいき） 哀公問五義篇のことば」

「ことばは多ければ良いものではない。その趣旨を明らかにすることが大切である。」

大戴礼記は、漢代の儒者戴徳が、古代の礼文献を取捨して整理した儒教関連の論文集で、戴徳の甥である戴聖も『礼記』（小戴礼記）を著しており、区別し『大戴礼記』と呼びます。本書の内容は、礼に対する論述（記）ですが、体系的なものではなく、雑多な論文の集まりです。

1 巻39 篇「主言」は、孔子と曾子との問答で、君主の徳について論じたものや、40 篇「哀公問五義」は、魯の哀公と孔子との問答で、人材登用について論じています。

趣旨を明らかにしながら話すことは、とても難しいことです。事実を正確に積み上げ、とりわけ結論から話し、相手が詳細を求めたときは端的に答えられるようにしておく必要があります。

緊急性の高い事案を迅速かつ正確に対処したり、忙しい相手とのコミュニケーションを成立させたりする鍵は、「結論から話す」ということです。結論が見えないままに、延々と状況や思いを語ってしまうのはルール違反です。ストレスを与えてしまいます。相手は聞きたい事が聞きたいのであってそれ以外はノイズです。

結論から伝える話法、「PREP法」を紹介します。

- P POINT =結論を述べる
- R REASON =その理由を示す（簡潔に！長くならないこと）
- E EXAMPLE =事例、シーンを語る
- P POINT =最初の結論でしめる

ソサエティ5.0の社会にあって、時代は、情報処理力から情報編集力、内容ベースから資質・能力ベース（つまりコンテンツからコンピテンシー（判断能力・対応能力・自己決定能力））へ進化しています。結論から話すことは、授業において問題発見や問題解決を論理的に展開する能力を高める視点といえます。